

複式学級の



授業実践の
ポイント

複式学級担当者が
知りたいことについて
先輩からのアドバイス

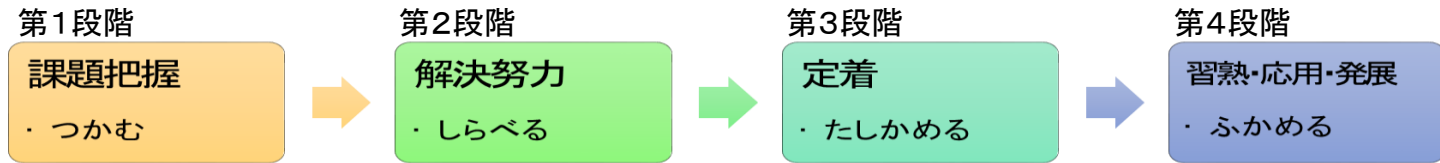




授業実践のポイントは？【指導段階】

○ 「わたり」を効率よく行うようにするためには、指導段階を学年別に「ずらし」た組み合わせが必要です。

4段階指導過程



(例)「ずらし」を計画して「わたり」を行う場合

下学年	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
わたり				
上学年	第4段階	第1段階	第2段階	第3段階

学習内容やねらいに応じて計画的に「ずらし」を組み合わせ、各指導段階の時間配分や間接指導時の手立てを具体的に考えましょう。

→ 「複式学級について」 → [「直接指導と間接指導」](#)、[「『わたり』と『ずらし』」](#) 参照

👉 授業実践のポイントは？ 【学習活動】

- それぞれの学習活動において、誰と何をする時間なのか、何をめざす時間なのかを教師と子供が共有することが大切です。



今はどんな時間かな？

自分自身で
解決する時間

友達と
解決する時間

先生と一緒に
解決する時間

どうなったら、ゴールかな？



授業実践のポイントは？ 【複式学級特有の言葉】

○ 「直接指導」「間接指導」「わたり」「ずらし」「ガイド学習」など、複式学級特有の言葉の意味を理解すると、授業の構成が考えやすくなります。

また、「学年別指導」「同単元指導」など、それぞれのメリットやデメリットも踏まえながら指導計画を立てることで、より長期的に、見通しをもって授業を進めることができます。

→ 「複式学級について」 → [「複式学級の学習指導の類型」](#)
[「直接指導と間接指導」](#)
[「『わたり』と『ずらし』」](#) 参照



教室の環境づくりのポイントは？【座席配置】

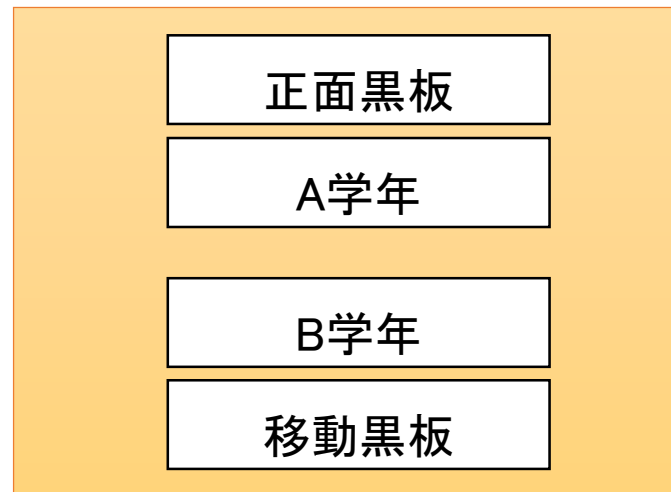
基本的な学習環境は、子供たちが落ち着いて学習できる空間となるように工夫しましょう。

座席配置

黒板やICT機器の位置

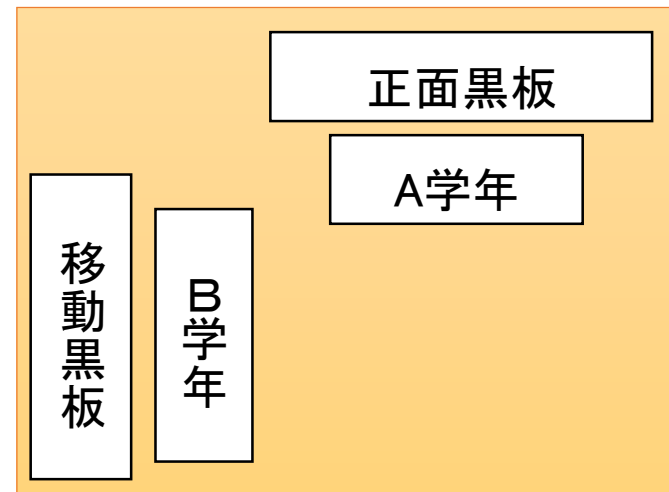
子供の動線

座席配置の例



【前後タイプ】

異学年の活動が視界に入らず、落ち着いて学習できます。



【L字タイプ】

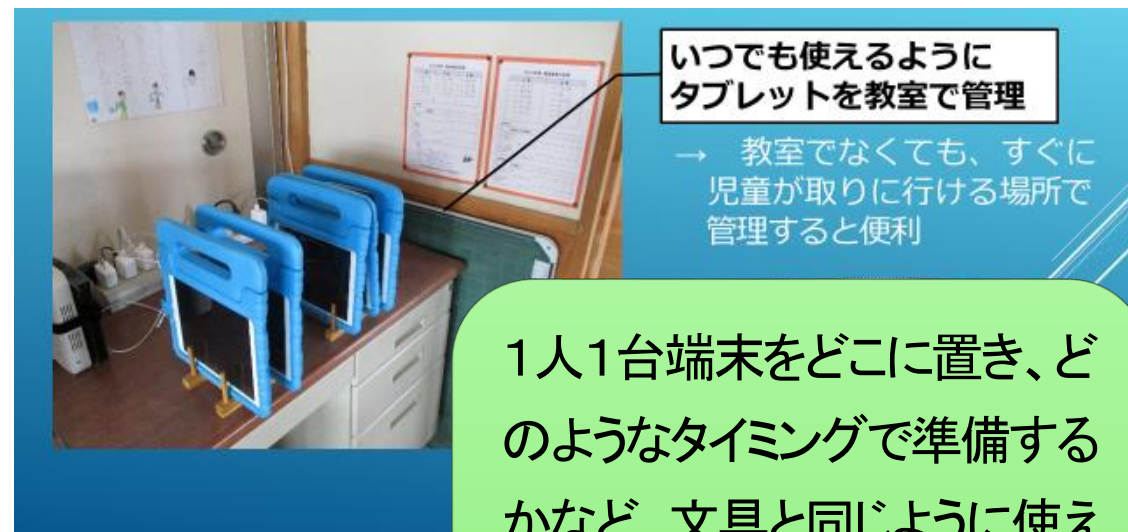
教師の移動距離が少なく、スムーズに「わたり」ができます。

パーティション等の活用により、活動に応じて、落ち着いた空間をつくることも考えられます。



教室の環境づくりのポイントは？【ICT環境】

ICT環境の例



1人1台端末をどこに置き、どのようなタイミングで準備するかなど、文具と同じように使える環境やルールを整えていくことも大切なポイントです。

